

天文ハイキング [VII]

23 夜塔

先人が月の盈欠を暦とすると共に月は暗夜を照らす神仏としての信仰の対象でもあった。この故に全国各地に凡ゆる月令の月待塔があり、特に勢至菩薩を祭る 23 夜塔、如意輪観音の 19 夜塔はじめ 18 夜、22 夜、26 夜塔など驚くべき数の石塔がみられるのは如何に往時この信仰が盛大であったかが偲ばれる。いま東北、信州、北関東、奥多摩などを旅行する人は街道のわきや辻々に必ずや一つや二つの月待塔に気づかれるであろう。

ここでは比較の見学しやすい場所を、2, 3 紹介します。

- 奥多摩湖の 23 夜塔と日食供養塔、奥多摩の街道ぞいに数々の 23 夜塔がみられると共に奥多摩湖の郷土館の前庭に多くの石塔と共に縦約 2m 横約 80cm の見事な 3 夜塔と世にもめずらしい日食供養塔がある。

このほか 23 夜塔は神奈川では道志川沿いの道、東北では郡山、などに著しく、三春駒の馬頭観音堂では今も盛大に三夜様祭りが行われている。

- 22 夜塔、埼玉の北西部、群馬の中西部などに多く秩父

では緑泥片岩の 22 夜塔もあり、主に女人講である場合が多い。

- 19 夜塔、栃木では 23 夜塔 602 基に対し全県で実に 1599 の 19 夜塔がある。郡山、いわきなどにも多数あり、いわきには 19 夜念仏がのこっている。
- 18 夜塔、東北に多く、山形市近郊に著しい。
- 26 夜塔、塔もあるが 26 夜待の行事が各地で行われかつては江戸でも盛大であったという。26 夜待は月が三体弥陀の姿になって現われるという、その真偽の程が古来「南畝莠言」「向岡閑話」などに論じられているが筆者は季節によって月の傾斜角から事実 3 体となって昇ることを信じているし、このあたりに天文民俗学の力を借りる必要があると思うのである。

ハイク参考書

- 23 夜塔 柳田国男集第 13 巻
- 日本石仏事典 庚申懇話会編

(箕輪敏行)

◇ 7 月の天文暦 ◇

日 時	記 事
2 4	朔
2 23	水星 留
4 8	地球 遠日点通過
7 14	小 暑 (太陽黄経 105°)
9 6	冥王星 留
9 12	上 弦
12 3	月 最遠
14 22	水星 西方最大離角
17 14	望
23 8	大 暑 (太陽黄経 120°)
24 19	下 弦
27 18	月 最近
31 13	朔 (日食)



奥多摩湖畔の 23 夜塔

◇ 7 月の日月惑星運行図 ◇

